

井上、ベテラン対決を制す 敗れた山崎は引退!

◀ヒジを出す井上。

▶MA日本スーパーライト級タイトルマッチ
○チャンピオン/井上哲(山木ジム)
[判定 3-0]
●挑戦者/山崎通明(東金ジム)
※井上が防衛に成功。

MA

日本キックボクシング連盟

日時●2002年9月28日 会場●東京・後楽園ホール 主催●山木ジム・東金ジム

▼MAヘビー級タイトルマッチ
○チャンピオン/内田ノボル(ビクトリージム)
[KO 2R1分40秒]
●挑戦者・同級1位/中西剛介(山木ジム)
※内田が防衛に成功。

MAキックボクシング連盟
東京スポーツ ゴング 格闘技雑誌 フルコンタクトカラテ

▲内田が2ラウンドにパンチで3度のダウンを奪ってKO勝ち。かった。

▲山崎はミドル、ハイで攻めたが全盛時のラッシュは見られなかった。

「井上哲 vs 山崎通明」

35歳の井上と36歳の山崎のベテラン対決となったこの二戦。井上はライト級に続き、今年の6月30日に中林勇人からこのスーパーライト級タイトルを奪いこの日が初防衛戦。

山崎は、1980年代からMAキックを支え続け、フェザー、スーパーフェザー、ライト級の日本タイトル3階級制覇を成し遂げた大ベテランである。しかし山崎は試合前から決めていた。「これが最後の試合」と。

試合は、1ラウンドは互角だったものの、2ラウンドから対格差が勝負を分けていった。山崎は元々フェザー級からこの階級まで3階級を上げてきているのに対し、井上は、元はライト級の選手。体つきが違うのは当たり前と言えは当たり前。この体格差を活かして井上が首相撲でポイントを取っていく。山崎は3ラウンドにアップバーで井上をぐらつかせたものの、組み付かれて、終始井上にクリーンヒットではないもののヒザを叩き込まれた。4ラウンドからは声を出しながら起死回生のバックフックや後ろ廻し蹴りなどを繰り出したが、井上にダメージを与えるまでには至らなかった。

試合終了のゴングが鳴ると両者とも両手を上げてアピール。山崎は「勝たせてくれ」と切ない叫びを上げたものの、判定は3者とも中盤から後半にかけてヒザでポイントを奪った井上を支持。井上が初防衛に成功した。

井上は試合後、「やらしてもらえらるなら、どんな試合でも受けます」と語った。
一方、4階級制覇の夢が叶わなかった山崎。惜しまれながらリングを去っていった。

「山田健博 vs 増田博正」

MAフェザー級王者の山田と、JINET同級王者の増田。この試合は、両団体の王者対決である。お互いどうしても負けられない、意地と意地のぶつかり合いとなった。

まずペースを握ったのは増田。中間距離からミドルを山田のガードの上からガンガン叩き込む。山田はローをカットできずほとんどもろにもらってしまった。増田の手数は山田の3倍以上。このラウンドを取った。

2ラウンドに入って、増田のローが効き始め、山田はバランスを崩す場面が出てきた。このまま増田ペースが続くかと思われた矢先、増田の出鼻に山田の左フックがカウンターとなって炸裂。一瞬動きの止まった増田に、山田はアップバー、左右フックを連打。一気に反撃に出る。クリンチで

2002
10/23
7NDL